

善正寺だより (一〇七)

合掌 お変わりなくお過ごしですか？平成もあと少しになりました。テレビラジオなどではこの三〇年を振り返る・・・という番組が放送され「そうかあの事件は、そんなに昔か・・・」「あの歌も懐かしい・・・」などと思いついておられます。その中で時代が区切りになる・・・という事でしょうか・・・有名人の訃報も続きます。中でも、女優の樹木希林さん、最近では市原悦子さんには非常にびっくりしました。まだまだ活躍する方々だと思っていたのですが・・・テレビではご逝去すぐに樹木希林さんを偲ぶ番組が何個か放映されていました。撮影現場の姿やインタビューが流れています。あるインタビューで、別居していましたがご主人のロックミュージシャンの内田裕也さんとの関係を話されていました。「どうして分けないのですか？」との質問に、「私にとって必要な存在です。彼と関わることによって自分のすべてが分かる・・・怒り・憎しみ・苦しみなどの負の感情が吹き出て、樹木希林の存在を分らせてくれる。大事な大切な人である。法華経というお経に提婆達多(ダイバダッタ)さんの話があるの。彼は、お釈迦様の従兄弟で非常に優れていたのですが悟りを開いたお釈迦様の事に嫉妬して、邪魔ばかりするの「奴より俺の方が優れている」と。お釈迦様はそんな邪魔である存在を大事と考え彼を必要とした。提婆達多は、仏道に反し悪しき世界に行かれるのだが、生まれ変わりについて悟りを得ることが書いてあるの・・・私にとって内田さんは、樹木希林の姿を写すか鏡のような存在なの・・・」と述べられていました。これを聞いてびっくりしました。表現活動をされる上で、自分の事を知るために宗教の分野も熟知されていたか・・・と。それ故人々に影響を

与える女優となられたのだと。日頃我々は、自分の事を知っているようで、知らない事がたくさんある。自分を知る意味で、周りの方々の存在があり、宗教というものが生まれ、それが人々に支えとなつていく場合があると彼女のコメントで再認識しました。その一番の場所に私はいると感じました。春の彼岸がやって参りますのでまた皆様と仏教に触れる時間を過ごしてまいりたいと思います。お参りください。

【本堂前の百日紅伐採いたしました】

昨年の台風二十四号で本堂前の老木の百日紅の上部が折れてしまいました。樹齢四〇〇年近くと推定して大事にしておりましたが、もう限界か・・・と下の部分をどうしようか？と思索しておりました。先ほどの樹木希林さんの話の続き、自分の引退時期の話で、彼女が心に残るある児童文学者の言葉が語られました。

『時が来たら、誇りをもって脇のどけ』という言葉でした。そうか・・・百日紅も子供たちが育つてきています。残りも倒れると害があるので、ここで区切りをしようと思ひ、二月十三日から作業をさせていただきました。



木の真ん中からチェーンソーをいれ伐り、作業トラックのクレーンで釣り上げています。



伐採後の様子です。ちょうどまわりの4本の百日紅の子供達が育ってきています。うち二本は、太く大きくなりそうです。将来への引き継ぎです。



百日紅がこんなに大きくなるのは非常に珍しいそうです。空洞が目立ち限界であると思いました。伐る時季であったとわかります。



これから百日紅の子供達の時代になります。よい枝振りになるといいと願います。

○五月から、新元号になります。どのような元号となるのでしょうか？いろいろと元号の候補があると思いますが、いい時代になるといいと思います。それに対応できるようなお寺になるように努めなければならぬと思います。気を引き締めて、参りたいと思います。三月の春の彼岸行事お参りお待ちしております。まだまだ不順な気が続きますが、お気をつけて。それではまた。